

交渉の労も惜しまぬ

園田厚相 陳情の互助会に約束

山本会長は「さきに厚生省が出した、水俣病は新日本窒素肥料水俣工場（現チッソ水俣工場）から排水されたメチル水銀化合物による公害病である」との政府見解は、患者の家族一同にとつてまさに、患者の中の光明を奪に思いがす「とおれを述べたあと「水俣病

る公病である。²との政府見解は、患者の家族一同にとつてまさにヤミの中の光明を得た思いがする」とお札を述べたあと「水俣病のように米代にもこと欠くせつぱは

情した。

仲介、あっせんをしてほしい」と陳

て恥ずかしくないものにするため、

全国の公害補償のテストケースとして取

詰まった状況の中で結ばれたもので、公害病認定の時点で改めて補償の要求するのは妥当である。しかし交渉には順序があるのであくまでも被災者たちの自主交渉を中心にして、市長、知事があつせんに当たるべきだ。それでもうま

くはない場合は私としても労を

していいのかわからないので、團田厚相の意見を聞いたが金額のことは話し合わなかった。しかし、市長、知事の調停でためな場合には最終的に團田厚相が乗り出してくれると約束してくれ、東京にきて本当によかったと思うている。補償要求額についてはこれまでの四つの小委員会を①おとなと子供の患者（死亡家庭のうち二十万円の一時金を打ち切られた家庭も含む）②死亡家庭——の二本立

いとわれない。ことに市長や知事はこの問題を被災者だけのものとせず、全市民、全県民の問題として國等に当たるよう私からも要請したい」と答えた。具体的な補償要求額などについての話し合いは行なわれなかった。

山本互助会長（左端）の陳情書を見る國田厚相（厚生省大臣室で）

▽山本亦由会長の話　今後チツ
ソと補償金交渉をするが全国公
害補償のテストケースともなる問
題であり、どれだけの補償を要求



水俣病

補償要求は当然

補助引上げを

特殊学級で橋
本市長も陳情

水俣市の橋本彦七市長は四日午後四時すぎ、厚生省に園田厚相を訪れ、政府見解への礼を述べたあと、今後の患者の医療救済対策について①普通の小学校の中に胎児性水俣病患者を中心に脳性マヒ患者も加えた特殊学級を来年四月からつくる計画だが、文部省の補助率が三分の一と低いので、これを引き上げてほしい②水俣病の潜在患者で申し出のない人たちを公害病患者と認定するための「水俣病審査委員会」に権威をもたせるため、委員を国で任命してほしいなどを陳情した。

これに対し厚相は「特殊学級問題は文部省の所管だが、文相と話し合って納得のいくよう努力したい」と答えた。

このあと橋本市長は記者会見で今後の補償問題について次のように語った。

水俣の補償問題は公害病として初めてのケースになるので、国があつせんするのが一番よいと思

う。被災者から申し出があれば私もお世話をしたいが、この場合は三十四年に会社側と見舞い金の調停に当たった寺本熊本県知事があつせん者となり、私はこれをお手伝いするのがよいと思つてゐる。